

SHORT MOVIE WORKSHOP

3日間+αで短編映画をつくろう

～ショートムービーワークショップテキスト～



SHORT MOVIE WORKSHOP

3日間+αで短編映画をつくろう
～ショートムービーワークショップテキスト～

発行日 平成28年12月1日
著者 服部敦 木全純治 佐藤久美

発行人 中部大学・公益財団法人名古屋まちづくり公社
編集 山口雅 伊藤成人 デザイン 伊藤成人

SHORT MOVIE WORKSHOP

3日間+αで短編映画をつくろう ~ショートムービーワークショップテキスト~

INDEX [もくじ]

1 ムービーワークショップのねらい まちづくりと映画づくり

中部大学 工学部 都市建設工学科 教授 服部 敦

1. 本書の使い方..... 2
2. まちづくりと映画づくりが結びついた..... 2
3. 土木系の大学の講義の中で映画づくり?..... 2
4. ワークショップのまちづくりへの効果..... 3

2 ムービーワークショップの背景とこれまでの展開

シネマスコーレ支配人 木全 純治

1. 短編映画作りの意義..... 4
2. デンマークの取り組み..... 5
3. これまでの実際の取り組み..... 5

3 ムービーワークショップのための基礎知識

1. 映画づくりのための最低限の知識..... 6
2. 撮影の基本ルール..... 6
3. フレームについて..... 7

4 3日間+αで短編映画をつくる

1. 基本構成..... 8
2. ムービーワークショップの簡単な流れ..... 8
3. 日程表..... 9

5 役割分担

1. 役割分担..... 10
2. 役割分担表..... 11

6 シナリオ

1. シナリオ概要..... 12
2. 登場人物設定..... 13
3. シナリオ見本..... 14
4. 絵コンテ..... 15

7 進行・撮影管理

1. 香盤表..... 16
2. スクリプトシート..... 17
- 絵コンテフォーマット..... 18
- スクリプトシートフォーマット..... 19

8 実施記録

1. 概要..... 20
2. 場所..... 21
3. [1日目]..... 22
 - ① 概要説明
 - ② ロケハン
 - ③ シナリオ大会
 - ④ 役割分担
 - ⑤ 撮影機材説明
4. [2日目・3日目]..... 23
 - ① シナリオの読み合わせ
 - ② 撮影
5. [4日目]..... 24
 - ① 補足撮影
 - ② 編集
 - ③ 仮上映
 - ④ 編集仕上げ
 - ⑤ 上映会
6. ワークショップを終えて~参加者の声..... 25

9 これまでのムービーワークショップ実績

1. 親子ムービーワークショップ..... 26
2. NHK文化センター名古屋教室「映画をつくろう」講座..... 26
3. 映像づくりワークショップ in 岐阜..... 27
4. ショートムービーワークショップ..... 27

10 おわりに

地域を見つめ直す映像製作の可能性..... 28

金城学院大学国際情報学部 教授 佐藤 久美

1 ワークショップのねらい

まちづくりと映画づくり 中部大学 工学部 都市建設工学科 教授 服部 敦

1. 本書の使い方

“まち”を舞台に映画をつくるのが、本書で紹介するワークショップの目的である。舞台となる“まち”のこと、映画制作のことも全く知らない人たちが10名程度集まれば、3日間または4日間で1本の短編映画を完成させることができる。そんなワークショップを、私たちは10年以上にわたり各地で実践してきた。本書は、これまでのワークショップで試行錯誤を重ねて来たワークショップの運営のノウハウを公開するものである。

本書は、同様のワークショップの運営を行おうとする主体が、ワークショップを企画し、運営する際の手引きとして活用できるように配慮している。また、ワークショップの参加者に対して、テキストとして配布することも可能である。



2. まちづくりと映画づくりが結びついた

出発点は、3日間で短編映画をつくることであった。映画づくりへの純粋な関心である、3日間で確実に映画が制作できることが分かってきて、運営のノウハウが固まってきた頃、まちづくりと結びつくようになった。

3日間で短編映画を制作するためには、必然的にロケ地が一定の範囲に限定されることになる。当然舞台となる“まち”の風景、人々、生活、文化、歴史など、さまざまな地域の資源が映画の中に入り込んでくる。“まち”を舞台に映画をつくるのが、まちづくりへの魅力的な入り口につながるという可能性が見えてきた。

制作するのは、創作ストーリー映画であり、ドキュメンタリーではない。“まち”の記録や情報発信が目的であるならば、ドキュメンタリーの方がよいのではないかと考える方もあるだろう。しかし、よいドキュメンタリーを撮影するためには、対象となる“まち”についての十分な取材を重ね、長期にわたり撮影を行い、素材を組み合わせる魅力的な構成を工夫するというように、多くの知識・技術・時間を要する。短期間で素人が直感的に“まち”の魅力を捉え、映画の中で表現するためにはストーリー映画の方が適している。

3. 土木系の大学の講義の中で映画づくり？

中部大学が主催となって実践してきたショートムービーワークショップは、こうした取り組みの一つである。都市建設工学科、すなわち土木系の学生達を対象に、映画づくりの実習を内容とした集中講義を実施してきたのである。当然、映画づくりの素人ばかりである。土木系は男子学生が多数を占めるため、女子大の学生の参加も得たが、こちらも映画づくりは素人である。

なぜ、土木系の大学の講義の中に映画づくりを取り入れることができたのか。映画づくりのプロセスはまちづくりのプロセスと共通するものであり、映画を作ればまちづくりができるようになると主張した結果である。映画づくりとまちづくりには、次の3つの共通点があるのだ。

① 空間を魅力的に切り取ることが重要であること

映画には、ロケ地の風景や文物を画面の中に魅力的に切り取ることが重要であり、まちづくりでも地域の風景や文物を景観形成に活かしていくことが重要である。

② 多くの人々の共感を得るストーリーづくりが重要であること

映画づくりには、魅力的なシナリオが不可欠であるが、まちづくりでも、なぜ空間をつくり変えていく必要があるのかを説明するために、多くの人々が共感するストーリーづくりが重要である。

③ 多様な人々が有機的に連携・協力できる組織運営が重要であること

映画づくりでは、監督の下で、俳優、カメラマン、録音マン、衣装さんなど多様なキャスト・スタッフの活動をまとめあげていく必要があり、まちづくりでも同様に、職業、年齢などがさまざまな人々のつながりをつくりあげていく必要がある。

学生たちは毎年、最初のうちはとまどいながらも、次第に真剣に映画づくりに取り組み、終わる頃にはチームに一体感、連帯感が生まれて「楽しかったー」と言ってくれる。続けているうちに気がついた効果もある。土木系の学生は、工学部の他学科の学生と異なり、大学時

代に学んだことを基に実際のものづくりを完成させることがない。大学の講義では、橋や道路をつくるという実習は無理である。映画という形で「まちづくり」の一応の成果を完成できるという達成感、学生にとって大切な経験の一つになるはずである。

4. ワークショップのまちづくりへの効果

中部大学で実施してきたワークショップは、舞台となる“まち”のことも映画づくりのことも、ほとんど知らない大学生を対象としてきたが、私たちは、小学生を対象としたもの、学生から高齢者まで多様な年代が参加したものなど、多様なワークショップを実践してきた。多くは、舞台となる“まち”にとって外から来た人達が参加するワークショップだったが、そのまちで生活している皆さんが撮影に協力していただく機会も多くあった。

外来者による映画づくりの効果として、地域資源の発掘につながるということがある。例えば、普段気付かない地域の資源が見いだされたり、見慣れた資源が思いがけない形で表現されたりするのである。

撮影場所の提供、映画そのものへの出演といった形で、地域の方々に参加いただけると、こうした効果は更に高まる。完成した映画の上映をきっかけに、参加者と地域の人々の間で、また地域の人々の中で“まち”を話題にしたおしゃべりが生まれることが何よりの成果である。2015年に名古屋市の円頓寺商店街をロケ地としたワークショップでは、こうした地域の人々との交流が具体化した。2016年の金山駅周辺のロケでは、さらなる拡張を図った。

これまでにまだ実現していないが、地域の人々だけが参加するワークショップも可能である。当然“まち”については素人ではないが、映画づくりは素人である。将来のまちづくりに向けて、地域の人々の参加を促し、地域の魅力的な資源を発見・共有するプロセスとして、映画づくりワークショップの活用を試みたい。

毎年または数年に一度の規模で、同じ“まち”を舞台にしたワークショップを繰り返し、完成した映画を蓄積(アーカイブ)していくことも効果的である。映し出される風景、映り込んだ地域の出演者たちは、地域にとっての大切な記録となる。

まちづくりと映画づくりの結びつきは、近年高まっている。フィルムコミッションによるロケ地誘致は各地で競争となっており、地域を舞台とした本格的な映画制作が活発化し、人気映画の巡礼地として観光振興につながる例もある。本ワークショップは、こうした流れとは別のものである。地域の人々が参加するまちづくりへの入り口として活用していただくことを期待している。



2016年参加者コメント集

- 3日間だけで映画を作る事ができたのが驚きでした。暑かったり鳩と闘ったり色々辛かった事が多い印象ですが、他大学の学生さんと交流できたりとても楽しかったです。
- ショートムービーワークショップを通じて、映画製作の初歩を学ぶとともに、その裏にある難しさを学ぶことができました。夏の最高の思い出の1つになりました！
- 朝起きるのが楽しくなるくらい充実した3日間でした。

ショートムービーワークショップ製作作品 累計14作品

年度	テーマ	ロケ地	作品名	
2012	木とコンクリート	中部大学キャンパス	それでも僕らはやめられない	都会女と田舎男
2013	光と影	鶴舞公園	キラリ	Heavenly Bad Day
			夏の光	—
2014	坂道	高蔵寺ニュータウン	Spiral Stairs 螺旋階段	坂道を自転車で乗って
2015	出会い	那古野四間道	グッドボーイ	カスミソウの花
			一つの出会いから…	—
2016	待ち合わせ	金山	WHO AM I	日曜日のことづけ
			金山で待ってて	キミの声

1. 短編映画作りの意義

映画を理解するためには、3つのことが大切である。

- ①映画を鑑賞する。
- ②映画を作ってみる。
- ③映画を批評する。

映画を知るためには、この3つを知るとより理解を深められる。これまで映画について知ろうとする場合には鑑賞することだけが中心で、作ることはあまり意識されていない。映画を作り、その上で批評があればさらに映画への理解を深めることができる。

映画作りのきっかけになったのは、デンマークのラース・フォン・トリアーとトマス・ヴィンターベアらが始めた「ドグマ95」を知ったことによる。それは、アンチ・ハリウッド方式を基本とし、低予算で映画を撮るという映画宣言である。35mmが主流だった95年当時、彼らが宣言した「ドグマ95」は10か条から成り「純潔の誓い」ともいわれる。



「ドグマ95」10か条

- 撮影はすべてロケーション撮影による。スタジオのセット撮影を禁じる。
- 映像と関係のないところで作られた音(効果音など)をのせてはならない。
- カメラは必ず手持ちによる。
- 映画はカラーであること。照明効果は禁止。
- 光学合成やフィルターを禁止する。
- 表面的なアクションは許されない(殺人、武器の使用などは起きてはならない)。
- 時間的、地理的な乖離は許されない。回想シーンなどの禁止。
- ジャンル映画を禁止。
- 最終的なフォーマットは35mmフィルムであること。
- 監督の名前はクレジットしてはいけない。

上記のうち、特に大事なのは最初の4つであり、これはカメラ1台あれば映画は撮れることを意味する。この宣言によって作られたのがトマス・ヴィンターベア監督の「セレブレーション」やソーレン・クラーク＝ヤコブセン監督の「ミフネ」など。その後、2000年にラース・フォン・トリアー監督の「ダンサー・イン・ザ・ダーク」がカンヌ国際映画祭でパルムドールを受賞したことで、世間を驚かせた。「ダンサー」は「ドグマ95」の一部を使い、この宣言が世界的に認められるきっかけになった。

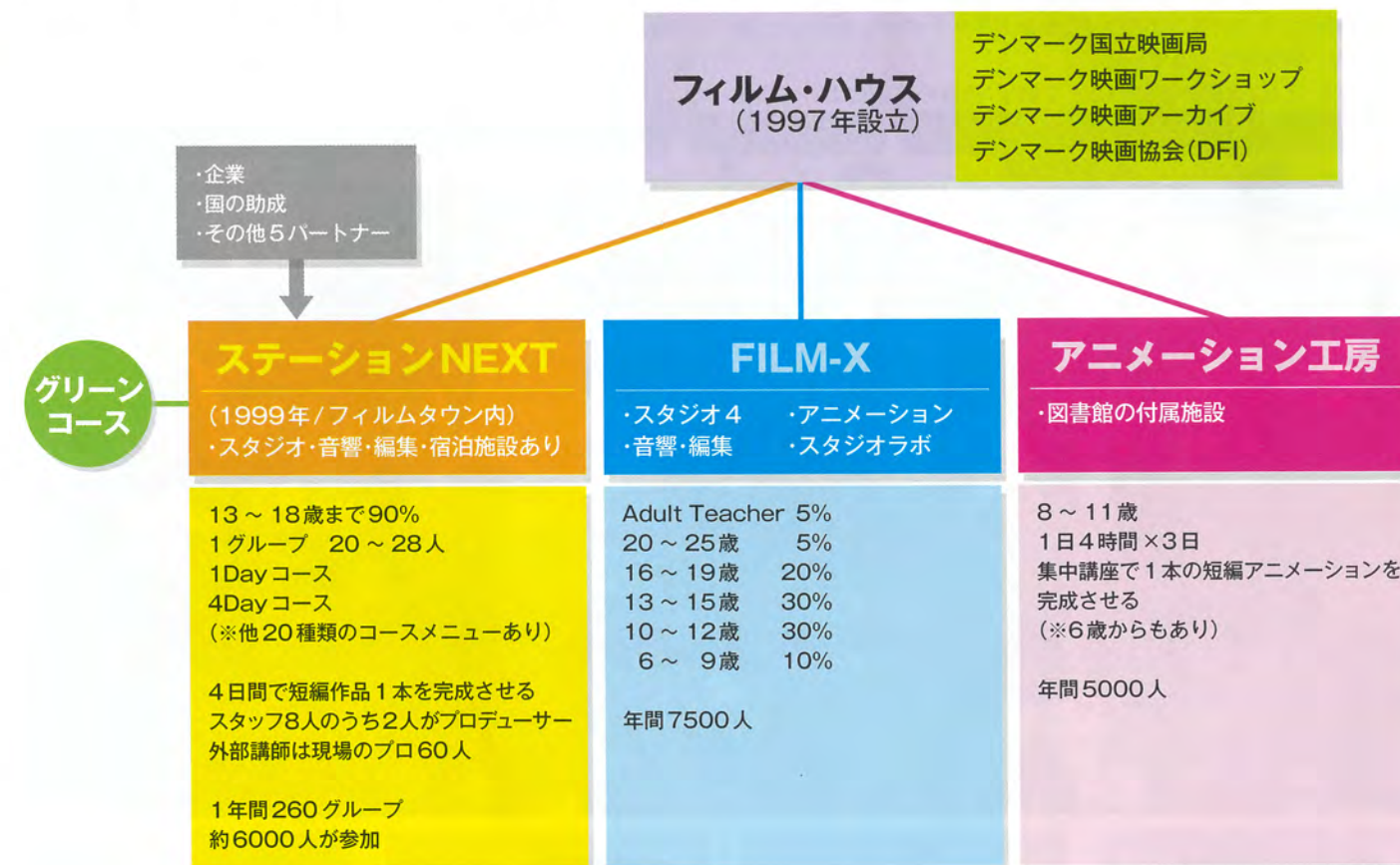
私は「セレブレーション」がドグマ方式で作られた作品だと知り、一台のカメラと少数のスタッフがいれば映画は作れるのではないかと思った。ドグマは10か条全てを守る必要はなく「カメラ一台で補正もCGも不要、今ある現実をしっかりと捉えれば映画は撮れる」と宣言をしている。ドグマシステムが世界に広がるのを見て、映画は誰でも撮れることに気付いた。これが僕の映画作りの始まりである。



2. デンマークの取り組み

デンマークに興味を持ち、2004年、2006年に訪れたところ、デンマークの映像教育の取り組みを知った。6歳～中学生を対象に学校教育の一環として映画作りを教える「FILM-X」というスタジオ。その上級コースである「ステーション・ネクスト」は、フォン・トリアー監督が所属するプロダクションが中心となり財団化し、子どもたちの映像制作プログラムを提供していた。生徒たちは1日コースから4日コースまで、多様な日程で映画を制作していたのである。

完備されたスタジオは陸軍基地跡地を利用したものであった。ドグマが世界的価値を認められていく中で、陸軍基地の移転跡地をフォン・トリアーとヴィンターベアが映画制作の現場にすることを提案した。格納庫に4つの年代のセットを作り、寄宿舎など多数の部屋を合宿の宿泊施設、編集スタジオ、録音スタジオなどに当てた。作品レベルは高く、映像が幼い頃から学べる体制が取られていることに驚き、「1日でも映画はできる」との認識を深めたのである。



3. これまでの実際の取り組み

2003年頃から映画作りを始めた埼玉県川口市にあるSKIPシティ。映画作りを学校教育の中に入れようという動きは川口市が一番早いと思われる。この取り組みを参考にしながら、2005年から映画作りの企画を始めた。

2005年7月～8月、「フレンドシップ・フィルム・フェスティバル」を愛知万博に合わせ実施した。世界21カ国から映画監督を招き、19市町に3週間ホームステイで短編映画を撮影するもので、私はディレクターを務めた。2005年、おやこセンターと組み、子どもの映像教育のための企画を実施した。

同年11月、名古屋おやこセンターと組み「キッズ・フィルムリテラシー」として子どもたちと映画作りを始める。翌2006年、下呂温泉で大人と子どもを対象に「おもしろ映画づくり体験」も行った。主催を変えながら小学生、中学生、大学生などと一緒に映画を作ってきた。2007年、岐阜市文化センターで行った「映像づくりワークショップ」が、3日間で映画を作る方法の土台となった。これは2014年まで毎年続いた。同じく2007年からNHK文化センターで始めた映画制作は現在も継続中で、半期の6回で短編映画を制作している。今回の「3日間で映画作り」は、岐阜で行った仕組みがほぼベースになっている。



1. 映画づくりのための最低限の知識

映画づくりで最も大事なことは、「日本映画の父」と呼ばれる映画監督・牧野省三が口にしてきた三大原則「一スジ、二ヌケ、三ドウサ」である。

「一スジ」とは、脚本のこと。これが良くなければ、すぐれた映画は作れない。脚本は作品の良否を決定する割合として5割以上を占めるものであり、いかに練り上げるかが非常に大切である。

「二ヌケ」とは、「撮影のヌケがいい」といわれるのと同じく、しっかり撮影ができているということ。コントラストがはっきりした、奥行きのある深い撮影がすぐれている。

「三ドウサ」とは、俳優の演技のことを指す。俳優の演技によって作品の質は大きく左右される。

そして、この3つの全てを司るのが映画監督である。このうち「一スジ」、つまり脚本の基本は「起・承・転・結」にある。「起」=物事の始まり。ファーストシーンは最も大切で、映画全体を暗示する衝撃的なものにするのが良い。観客をファーストシーンでグイッと引き込むことが大切だ。「承」=物語の展開。登場人物たちの性格設定と関係性をしっかり描くことが大事となる。物語の中に伏線を織り込むと面白くなる。「転」=クライマックス。大きな出来事を迎える。いくつかの物語が組み合わさり、頂点へと上る。意外性や驚きがあれば面白い。「結」=ラスト。余韻があると良い。その中に監督のメッセージが含まれていると、作品がより良くなる。これらを意識して、脚本を練り上げることが大きなポイントとなる。



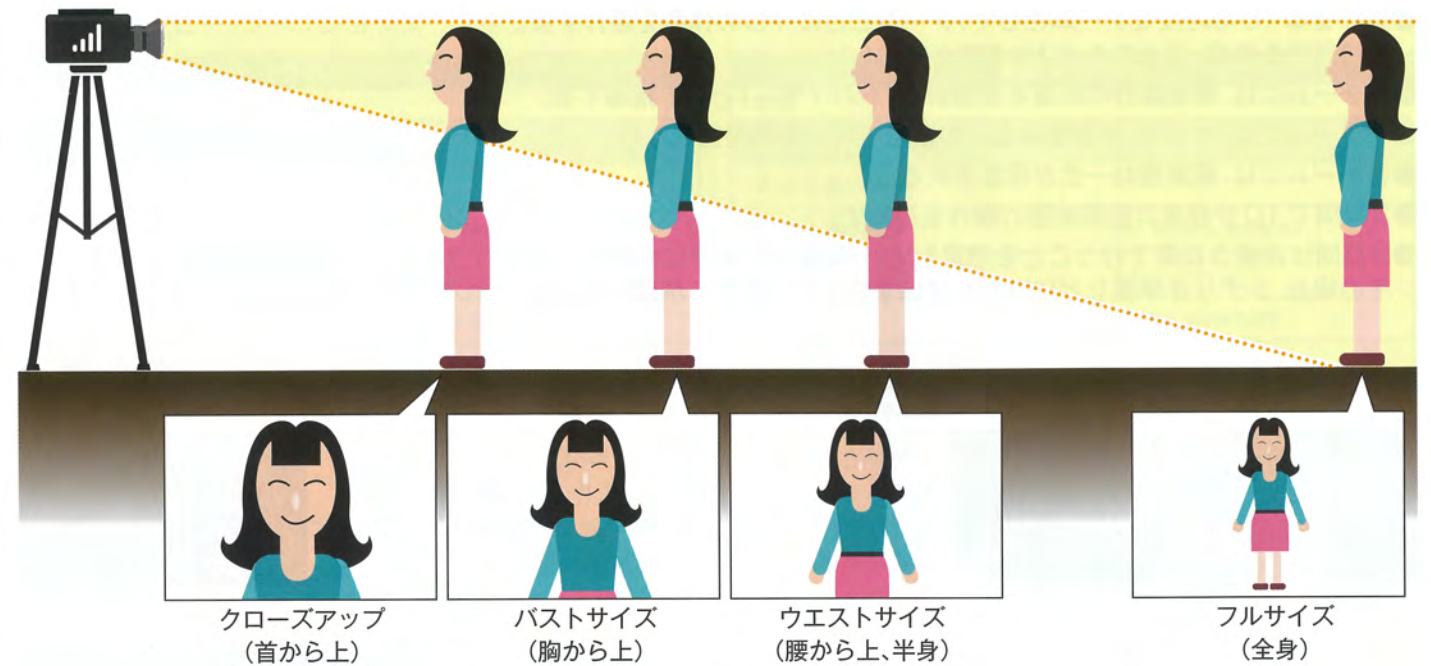
2. 撮影の基本ルール

日本映画の名匠、小津安二郎、成瀬巳喜男監督の作品を見ればわかる様に、固定された画面でしっかりと絵作りがされている。映画の基本は一枚の絵にあり、それが写真となり、そして動画へと進化している。固定した画面をつなげば、すでにそこに意図した映像を作ることができる。映像製作の基本は、固定した画面の絵作りから始まる。

- ① 順撮り(物語の進行に沿って撮影する)
- ② ズームを使用しない
- ③ 固定画面で撮る(上下左右の振りなし)
- ④ フルショット・バスタップ・アップの3種類を使用
- ⑤ 三脚を使って撮る
- ⑥ 撮影小道具の持込は可
- ⑦ 「スタート」「カット」の前後5秒ほど余分に撮る
- ⑧ 配役はグループ内でおさめる
- ⑨ 通行人などの邪魔にならないようにする
- ⑩ 店舗内部での撮影は、店の人の了承を得て事前の段取り打ち合わせをしっかりとし、最小限の時間にする
- ⑪ 雨天時の撮影は屋内、アーケード内とすると良い



3. フレームについて



3. 最低限の機器・装備



4 3日間+αで短編映画をつくる

1. 基本構成

- 参加者は10名程度をチームとして、チームごとに1つの作品を製作する。
※最低でも8名、多くても12名までが望ましい。
- 各チームには、映画製作の経験者が講師(アドバイザー)として指導する。
- 各チームには、カメラ、録音機材などの撮影機材一式が用意される。
- 各チームには、編集機材一式が用意される。
- 3日間で10分程度の短編映画の製作を目指す。
- 3日間は連続3日間で行うことを想定している。毎週日曜日に3週間かけて行うなど、日程は柔軟に設定できる。
その場合、シナリオ準備などに時間を確保することができるが、集中力が途切れる、天候が変わるなどのリスクもある。

2. ムービーワークショップの簡単な流れ

01

テ

マ

と

撮

影

場

所

テーマと場所を発想のきっかけにして、4～6人程度が登場するストーリー(あらすじ)を作る。撮影場所は、撮影基地(待機場所)から1時間ほどで回れる範囲が良い。第1日目または事前にロケハンしておく。



02

プ

レ

ゼ

ン

大

会

参加者は10人程度でチームを組む。各チームとも映画製作の経験者が講師(アドバイザー)として指導する。参加者全員が3分程度でストーリーを発表する。登場人物の男女別、年齢、職業、性格などを考慮する。



03

役

割

分

担

スタッフ、キャストを決定する(役割分担表を参照)。プレゼン大会で多数票を得た人が監督となる。監督を決定する手順として、2段階の投票とし、先ず3名ほどを選ぶ。決戦投票の際に再度、候補作のプレゼンをするとう効果的になる。



04

シ

ナ

リ

オ

の

検

討

各チームの講師とシナリオを検討する。シナリオは映画製作の骨格であり、この良否で作品の出来が決まる。登場人物の特徴、家族関係、来歴なども配慮する。



05

撮

影

準

備

撮影機材のテストと衣装、小道具などを揃える。ロケ先を事前に調査して、ロケ先の許可を得る。



06

撮

影

撮影の基本ルール(別頁)に沿って撮影する。



07

編

集

OKテイクをつないでいく。同じ場面を複数の角度から撮影している(カット割をしている)場合は、複数のカットを組み合わせる。監督の指示でシーンの長さ、タイトルバック、エンドロール、著作権フリーの音楽を入れて作品を完成させる。



3. 日程表

ショートムービー・ワークショップ スケジュール

3日バージョン		
【1日目】		
時間	ワークショップ内容	詳細
8:40	関係者集合	
9:00	参加者集合	受付、資料配布、参加費徴収
9:15	チーム編成発表、自己紹介、ガイダンス	A・B・C・Dチーム 概要説明、資料映像試写
10:30	ロケハン	
11:30	休憩(各自昼食)	
12:30	シナリオプレゼン大会	各自シナリオのアイデア発表
	シナリオ決定	チーム毎に撮影するシナリオ1本を決定
14:00	担当役割分担	カメラマン・録音担当・記録担当など主要スタッフを決定
14:30	シナリオの肉付け	意見を出し合いシナリオの詳細を決定
	キャスト決定	シナリオに合った役者(キャスト)を決定
16:30	(カメラマン・録音担当はこの間に機材の取扱説明を受ける)	
17:00	終了	撮影のための打ち合わせをしてから解散

【2日目】		
時間	ワークショップ内容	詳細
8:40	関係者集合	
9:00	参加者集合	打ち合わせ、シナリオ調整
10:30	撮影	チーム毎に撮影
12:00	休憩(各自昼食)	
12:40	撮影再開	
16:50	終了	次回の打ち合わせをしてから解散

【3日目】		
時間	ワークショップ内容	詳細
8:40	関係者集合	
9:00	参加者集合	打ち合わせ
9:30	編集(撮影が残っている場合は撮影)	チーム毎に編集
12:00	休憩(撮影の最終締切)	
12:40	編集	
16:30	編集	音入れ、タイトルロール、エンドロール
16:00	ラッシュ上映会	
17:30	終了	

4日バージョン		
【1日目】		
時間	ワークショップ内容	詳細
8:40	関係者集合	
9:00	参加者集合	受付、資料配布、参加費徴収
9:15	チーム編成発表、自己紹介、ガイダンス	A・B・C・Dチーム 概要説明、資料映像試写
10:30	ロケハン	
11:30	休憩(各自昼食)	
12:30	シナリオプレゼン大会	各自シナリオのアイデア発表
	シナリオ決定	チーム毎に撮影するシナリオ1本を決定
14:00	担当役割分担	カメラマン・録音担当・記録担当など主要スタッフを決定
14:30	シナリオの肉付け	意見を出し合いシナリオの詳細を決定
	キャスト決定	シナリオに合った役者(キャスト)を決定
16:30	(カメラマン・録音担当はこの間に機材の取扱説明を受ける)	
17:00	終了	撮影のための打ち合わせをしてから解散

※1日目の後にシナリオ作成のために1週間～2週間空ける。

【2日目】		
時間	ワークショップ内容	詳細
8:40	関係者集合	
9:00	参加者集合	打ち合わせ、シナリオ調整
10:30	撮影	チーム毎に撮影
12:00	休憩(各自昼食)	
12:40	撮影再開	
16:50	終了	次回の打ち合わせをしてから解散

【3日目】		
時間	ワークショップ内容	詳細
8:40	関係者集合	
9:00	参加者集合	打ち合わせ
10:30 16:50	全日撮影	チーム毎に撮影

【4日目】		
時間	ワークショップ内容	詳細
8:40	関係者集合	
9:00	参加者集合	打ち合わせ
9:30	編集(撮影が残っている場合は撮影)	チーム毎に編集
12:00	休憩(撮影の最終締切)	
12:40	編集	
16:30	編集	音入れ、タイトルロール、エンドロール
16:00	ラッシュ上映会	
17:30	終了	

5 役割分担

1. 役割分担

映像製作には様々な役割があります。その詳細が下記となります。みんなで話し合い担当を決めてください。

役割	人数	役割の内容
監督 (ディレクター)	1	映画全体の方向性、内容において最終決定をする。
脚本家 (シナリオライター)	1~2	映画全体のストーリーを構成。登場人物の性格設定・人間関係を明確にして脚本を作成する。
助監督 (アシスタントディレクター)	1~2	演出面で監督の補佐をする。
制作進行	1~2	予算管理、製作日程表をつくり、撮影の準備をする。
カメラマン	1	監督の指示に従い、構図を決定し、ホワイトバランス・感度に注意を払って撮影をする。
アシスタントカメラマン	1~2	三脚の移動・固定やカメラ機材(バッテリーなど)の準備、ホワイトバランス設定など、カメラ関連のセッティングを補助する。
録音	1	セリフや背景音などの音を的確に収録することに注意を払う。ヘッドフォンで常に音のレベルを確認しながら録音を行う。
録音アシスタント	1	マイクブームを対象者に向け、的確に音を収録する。
照明	1~2	屋外撮影の場合は、レフ板を使って光源の補助をする。屋内の場合は、簡単な照明器具を使って対象者・対象物に光を当てる。
スクリプター	1	OKカット、NGカットを記録し、カットのつながりをチェックする。また、撮影の衣装を記録し、場面の状況を把握する。
編集	1	OKカットをつなぎ、監督の指示に従い、ムダな部分をカットする。同時に、音楽・効果音にも注意を払う。
美術	1~2	大道具や小道具などを用意する。撮影場所の飾り付けをする。
衣装	1	俳優の着用する衣装を用意し、撮影中は衣装の管理を行う。
ヘア・メイク	1	俳優の髪型やメイクアップを担当する。
俳優 (キャスト)		ドラマの中の役割を演じる。

2. 役割分担表

役割	名前	備考
スタッフ		
監督(ディレクター)		
脚本家(シナリオライター)		
助監督(アシスタントディレクター)		
制作進行		
カメラマン		
アシスタントカメラマン		
録音		
録音アシスタント		
照明		
スクリプター		
編集		
美術		
衣装		
ヘア・メイク		
キャスト		
役名:		
役名:		
役名:		
役名:		
役名:		
役名:		
役名:		
役名:		
役名:		
役名:		

6 シナリオ

1. シナリオ概要

登場人物の人物設定(年齢・職業・性格など)を記した後、ストーリーを書いていきます。

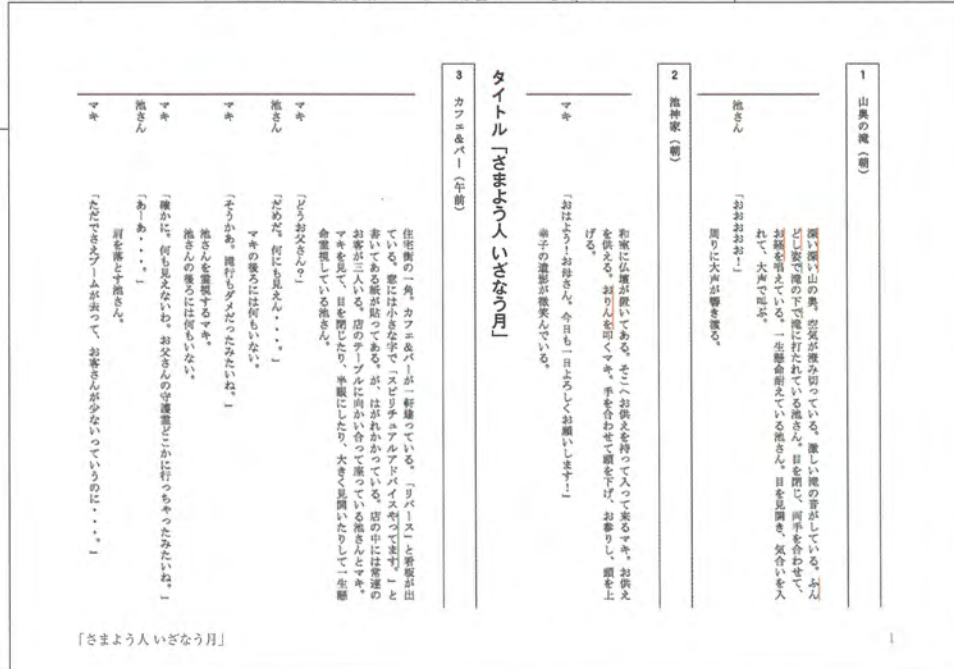
表紙例



登場人物設定例

登場人物	年齢	職業	性格
池神和平	63	カフェ&バー「リベース」のマスター兼「しあわせや」のスピリチュアルアドバイザー	霊感がどこかに行つてしまい、霊視ができなくなる。修行するが効果が無く、ひとり娘のマキに「しあわせや」を任せることになる。(岡本昌司)
池神マキ	34	カフェ&バー「リベース」のウェイトレス兼「しあわせや」のアシスタント	池さんのひとり娘。池さんが霊視ができなくなり「しあわせや」を任せられることになる。(北岡真紀子)
池神幸子	58	マキの母親	すでに亡くなっており、今はマキの守護霊で、娘を支えている。(山本久恵)
南史織	32	高校の日本史の先生	豊臣秀吉が大好き。お見合いで健二にひとめぼれする。健二との結婚のお許しを秀吉にもらうために、秀吉に会わせてもらおうと「しあわせや」にお願いに来る。(千鳥)
南恵子	58	史織の母親	史織と健二をお見合いさせる。(南木京子)
滝健二	30	史織の婚約者	史織にプロポーズをする。(滝建造)
豊臣秀吉		戦国武将	背が低く、下品で、無類の女好き。右手の親指が二本ある。史織と健二の結婚を歓迎する。
男子生徒A			史織を尊敬する。(谷公人)
男子生徒B			史織を尊敬する。(水谷くん)
鬼頭校長	55	史織が勤めている学校の校長先生	恵子の大学の後輩。いつも史織のことを気にかけている。(伊藤成人)
史織同僚A			史織と飲む。
史織同僚B			史織と飲む。
小林渉	35	大手会社勤務。課長	「リベース」の常連客。高校の部活の後輩菜月に同窓会で再会し、同棲し始めるが、突然の菜月の失踪に戸惑い、菜月に会わせてもらおうと「しあわせや」にお願いに来る。(小池祥)
谷本菜月	33	渉の高校の部活の後輩	同窓会で渉と再会し、渉と同棲し始めるが、突然失踪する。結婚詐欺師。(山下七海)

シナリオ例



2. 登場人物設定

登場人物

池神和平 (63)

通称池さん。カフェ&バー「リベース」のマスター兼「しあわせや」のスピリチュアルアドバイザー。ところが突然、守護霊がどこかに行つてしまい、霊視ができなくなる。修行するが効果が無く、ひとり娘のマキに「しあわせや」を任せることになる。(岡本昌司)

池神マキ (34)

池さんのひとり娘。カフェ&バー「リベース」のウェイトレス兼「しあわせや」のアシスタント。池さんが霊視ができなくなり「しあわせや」を任せられることになる。(北岡真紀子)

池神幸子 (58)

池さんの妻。マキの母親。すでに亡くなっており、今はマキの守護霊で、娘を支えている。(山本久恵)

南史織 (32)

高校の日本史の先生。豊臣秀吉が大好き。お見合いで健二にひとめぼれする。健二との結婚のお許しを秀吉にもらうために、秀吉に会わせてもらおうと「しあわせや」にお願いに来る。(千鳥)

南恵子 (58)

史織の母親。史織と健二をお見合いさせる。(南木京子)

滝健二 (30)

史織の婚約者。史織にプロポーズをする。(滝建造)

豊臣秀吉

戦国武将。背が低く、下品で、無類の女好き。右手の親指が二本ある。史織と健二の結婚を歓迎する。

男子生徒A

史織を尊敬する。(谷公人)

男子生徒B

史織を尊敬する。(水谷くん)

鬼頭校長 (55)

史織が勤めている学校の校長先生。恵子の大学の後輩。いつも史織のことを気にかけている。(伊藤成人)

史織同僚A

史織と飲む。

史織同僚B

史織と飲む。

小林渉 (35)

大手会社勤務。課長。「リベース」の常連客。高校の部活の後輩菜月に同窓会で再会し、同棲し始めるが、突然の菜月の失踪に戸惑い、菜月に会わせてもらおうと「しあわせや」にお願いに来る。(小池祥)

谷本菜月 (33)

渉の高校の部活の後輩。同窓会で渉と再会し、渉と同棲し始めるが、突然失踪する。結婚詐欺師。(山下七海)

6 シナリオ

3. シナリオ見本

登場人物の人物設定（年齢・職業・性格など）を記した後、ストーリーを書いていきます。

1 山奥の滝（朝）

深い深い山の奥。空気が澄み切っている。激しい滝の音がしている。ふん
どし音で滝の下で滝に打たれている池さん。目を閉じ、両手を合わせて、
お経を唱えている。一生懸命耐えている池さん。目を見開き、気合いを入
れて、大声で叫ぶ。

池さん 「おおおおお！」
周りに大声が響き渡る。

2 池神家（朝）

和室に仏壇が置いてある。そこへお供えを持って入って来るマキ。お供え
を供える。おりんを叩くマキ。手を合わせて頭を下げ、お参りし、頭を上
げる。

マキ 「おはよう！お母さん。今日も一日よろしく願います！」
幸子の遺影が微笑んでいる。

タイトル「さまよう人 いざなう月」

3 カフェ&バー（午前）




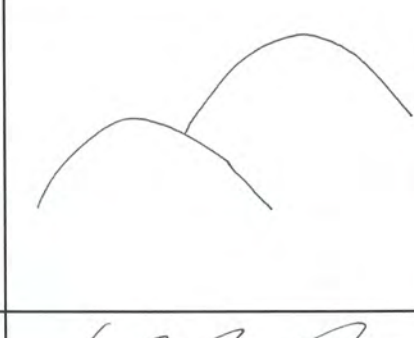
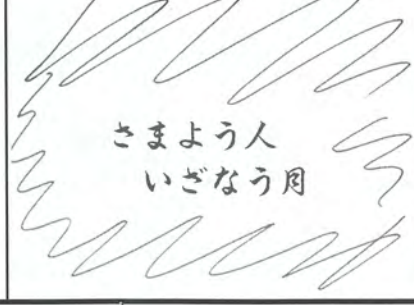
住宅街の一角。カフェ&バーが一軒建っている。「リバーズ」と看板が出
ている。壁には小さな字で「スピリチュアルアドバイスやります。」と
書いてある紙が貼ってある。が、はがれかかっている。店の中には常連の
お客が三人いる。店のテーブルに向かい合って座っている池さんとマキ。
マキを見て、目を閉じたり、半眼にしたり、大きく見開いたりして一生懸
命監視している池さん。

マキ 「どうお父さん？」
池さん 「だめだ。何にも見えん……。」
マキの後ろには何もいない。
マキ 「そうかあ。進行もダメだったみたいね。」
池さんを監視するマキ。
池さんの後ろには何もいない。
マキ 「確かに。何も見えないわ。お父さんの守護霊どこに行っちゃったみたいね。」
池さん 「あーあ……。」
肩を落とす池さん。
マキ 「ただでさえアームが去って、お客さんが少ないっていうのに……。」

「さまよう人 いざなう月」

4. 絵コンテ

監督の描くイメージをスタッフ・キャスト全てが共有できるように絵で書いたもの。

タイトル		さまよう人 いざなう月		No.	1
SCENE	CUT	SIZE	DATA	SC.	SEC.
1	1	ロング ショット			滝。
1	2	ミ ショット			ふんどし音で滝に 打たれている池さん。 目を閉じ、両手を 合わせて、お経を 唱えている。
1	3	アップ			一生懸命耐えている 池さん。目を見開き、 気合いを入れて、大声で 叫ぶ。 「おおおおお！」
1	4	ロング ショット			「おお おおお——！」 池さんの声か 山にこだまする。
タイトル					黒バックにタイトル

7 進行・撮影管理

1. 香盤表

撮影の順序、出演者の出入り時間、撮影場所などを表にしたもの。

作品名「さまよう人 いざなう月」香盤表													
★ 6月18日土曜日													
予定時刻	シーン	場面	町地	時間	出演者								備考
					木下純一	お客様A	お客様B	南史織	史織同僚A	史織同僚B	小林涉	山下	
9:00		秀吉清正記念館集合											
10:00	26	秀吉記念館 お客様を接待している純一	秀吉清正記念館前	午前	○	○	○						
11:00	28	秀吉記念館 ハンチでお弁当を食べる純一	秀吉清正記念館前ハンチ	昼	○								
11:30	30	秀吉記念館 事務所を出ていく純一	秀吉清正記念館前	夕方	○								
12:00	32	競輪場近くの店 競馬中継を見ている純一	中村公園	夕方	○								
13:00	48	秀吉記念館 コンビニ弁当にうんざりする純一	秀吉清正記念館前ハンチ	昼	○								
13:30	52	コンビニエンスストア前 お金が無く立ち尽くす純一	コンビニエンスストア前	午前	○								
14:00		秀吉清正記念館出発											
14:30		居酒屋マンション着											
15:30	8	居酒屋 お酒を飲んでいる渉と山下	居酒屋マンション	夜			○	○	○	○	○		
17:30		居酒屋マンション出発											
18:00		伊藤さんの会社着											
19:00	6	オフィス 仕事をしている渉	伊藤さんの会社	夜					○	○	○		
20:00	7	路上 信号待ちをしている渉	鶴舞交差点	夜					○	○			
入り時間		集合場所	俳優						【memo】				
9:00		秀吉清正記念館	木下純一	木全純治		お客様A	大倉由加里						
9:00		秀吉清正記念館	お客様B	佐久間篤司									
14:30		居酒屋マンション	南史織	千晶		史織同僚A	宇佐美さんの友達						
14:30		居酒屋マンション	史織同僚B	伊藤さんの友達		小林涉	小池祥						
14:30		居酒屋マンション	山下	山田雅和									
18:00		伊藤さんの会社	女子社員A	伊井遥香		女子社員B	川口智子						

2. スクリプトシート

撮影のシーン、カット、テイク毎の記録をつけ、OKカット、NGカットをわかるようにしておく。後の編集時に見ることで効率的な編集ができるようになる。

スクリプト No. 1						撮影日 2016 / 6 / 18 /		
企画タイトル さまよう人 いざなう月						制作チーム名 浅井組		
S	C	Take	時間	ファイルナンバー	内容	OK	NG	備考
26	1	1	~1.15	95	建物外観全体		×	人が通った
26	1	2	~3.05	96	建物外観全体	○		
26	2	1	~3.50	97	館内シーン	○		
28	2	2	~5.10	98	弁当ヌキ		×	
28	2	1	~6.15	99	食べるシーン		×	へりの音入る
28	2	1	~7.05	100	食べるシーン	○		上を見上げるまででカット

タイトル

No.

SCENE			SEC.
CUT			
SIZE			
SCENE			
CUT			
SIZE			
SCENE			
CUT			
SIZE			
SCENE			
CUT			
SIZE			

スクリプト No.

撮影日 / /

企画タイトル

制作チーム名

S	C	Take	時間	ファイル ナンバー	内 容	OK	NG	備 考

8 実施記録

1. 概要

ショートムービーワークショップ2016 3日間+αで短編映画をつくる!

日時:2016年7月24日・8月5日・6日・7日

場所:名古屋市金山総合駅周辺

参加人数:42人

テーマ:「待ち合わせ」

共催:中部大学・金城学院大学・名古屋まちづくり公社

協力:シネマスコーレ

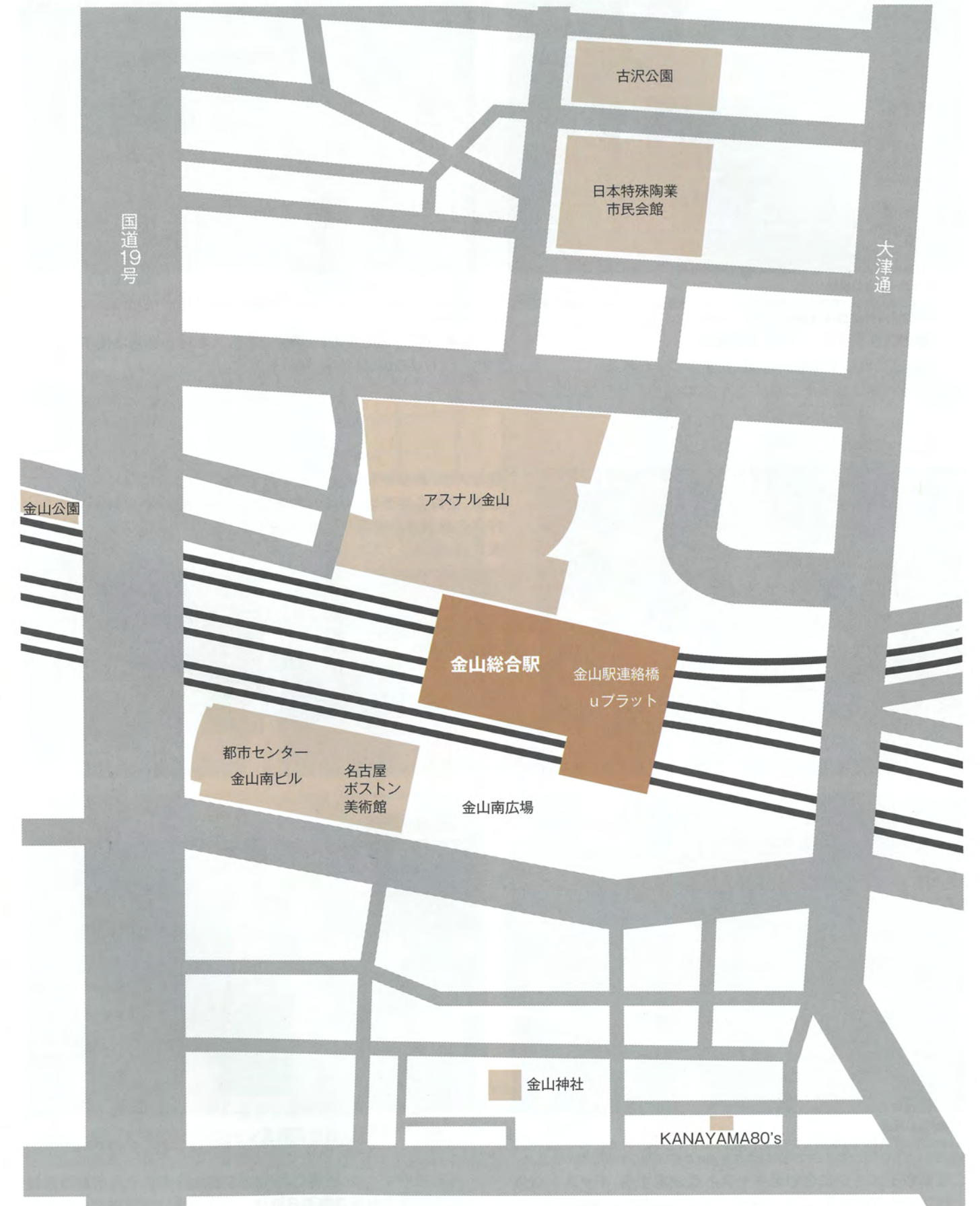
主な撮影場所:

- ・日本特殊陶業市民会館
- ・アスナル金山(屋上、通路、店舗)
- ・金山駅連絡橋
- ・uプラット
- ・都市センター(会議室、フロアー、ライブラリー、展示スペース、交流サロン)
- ・金山南ビル
- ・金山南広場
- ・KANAYAMA80's
- ・金山神社
- ・古沢公園
- ・金山公園
- ・名古屋ポストン美術館



2. 場所

名古屋市都市センターをベース拠点として、金山総合駅周辺でロケーション撮影。編集等を行いました。



3.【1日目】

①概要説明



オリエンテーション風景
最初に映画づくりについてのルールや全体スケジュールを説明しておくことが重要。参加者全員が共通の認識を持つことで、計画的に進めていきます。

- 今後のスケジュール説明、講師挨拶
- グループ分け。1グループ10人ずつに分かれる。
- 各グループに1人ずつ講師が付き、映画づくりを先導する。

②ロケハン



ロケーションハンティング風景
撮影場所として適しているか、アングル、撮影条件(時間・曇りなど)、撮影許可の要不要などを確認しながら見ていきます。

- 金山駅近郊で撮影に使用できるスポットを巡る街歩き。許可の下りる店、駅構内、神社など

③シナリオ大会

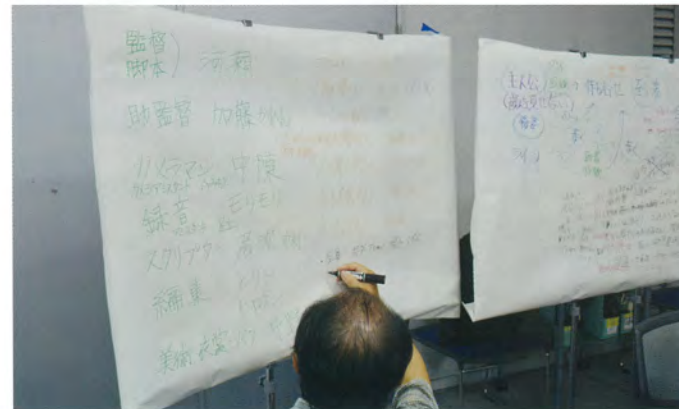


シナリオ大会風景
ひとりひとりが事前に考えたアイデアやストーリーを発表。緊張しながらも次第に盛り上がり、みな目がキラキラとします。

○登場人物、あらすじの構想を一人ずつ出し合い、ホワイトボードに記録。全員の発表後、ボードを見ながら各自投票を行う。選ばれた一作品の発表者が監督となる。決定したアイデアを基に全員でふくらませ、監督はシナリオに起こす。



④役割分担



役割分担の風景
積極的にやってみたい「役割」を希望する人、自分からは希望をしない人、それぞれ、希望する役割を担当してもらうのが基本ですが、参加者の特技・趣味なども考慮して講師が助めることも。
○監督がイメージに合わせてキャストを決定する。キャスト以外はスタッフとなる。キャストがスタッフを兼ねる場合もある。

⑤撮影機材説明



カメラ取扱説明風景
はじめて触るビデオカメラにドキドキ、ワクワク。他の役割になった参加者も興味深げに近寄ってきます。
○カメラやマイク、三脚など機材の基本操作をそれぞれの担当者にレクチャー。

4.【2日目・3日目】

①シナリオの読み合わせ



シナリオ読み合わせ風景
俳優のセリフの読み合わせをする中で、監督が動き方やシナリオのイメージに合うよう指示を出していきます。

○監督が仕上げてきたシナリオを、キャスト間で読み合わせ。



②撮影



撮影風景
積極的にやってみたい「役割」を希望する人、自分からは希望をしない人、それぞれ、希望する役割を担当してもらうのが基本ですが、参加者の特技・趣味なども考慮して講師が助めることも。

- 絵コンテに沿ってシーンの撮影を進める。各場所での撮影可能な時間帯、天候状況などを優先して順次撮影していく。
- カット割りを考慮し、一シーンを複数位置にカメラを置きながら撮影していく。
- 撮影が済んだらその場で映像チェックし、必要がある場合はリテイクを行っていく。
- 撮影を終えたカットは記録を書き込んでいく。
- 通行人や来場者などに留意しながら迷惑をかけず撮影を実施する。

5. [4日目]

①補足撮影



補足撮影風景
最初に映画づくりについてのルールや全体スケジュールを説明しておくことが重要。参加者全員が共通の認識を持つことで、計画的に進めていきます。

○撮り切れなかったカットや、新たに追加するカットの補足撮影を行う。

②編集



編集風景
撮影場所として適しているか、アングル、撮影条件(時間・曇りなど)、撮影許可の要不要などを確認しながら見ていきます。

- それぞれのOKテイクをつなぎ合わせていく。
- 全体をプレビューし、監督指示でナレーションや音楽、効果音を入れていく。
- タイトル、エンドロールクレジットを入れる。

③仮上映



仮上映風景
○スクリーンで仮上映する。

④編集仕上げ



編集仕上げ風景
○編集の最終仕上げを行い完成させる。

⑤上映会



上映会風景
わずか数日ではありますが、一緒に映画をつくりあげた仲間と見る上映会は格別。みな感慨深げに見ていました。

- 上映を行う。
- アップロードを行う。

6. ムービーワークショップを終えて～参加者の声



- 映画は普段から好きで見ているが、製作は初めて。これから映画を見る時に今までと違う視点で見られそう。1つのシーンでも何度も撮影を重ねているのだと知った。
- 面白かった。グループでは初めて会う人たちばかりだったが、ひとつの作品を共同で作ることですぐ仲間になれた。いろいろな人と交流できたことが良かった。
- もともとまちづくりに関心があった。知っている街だけど、撮影を通じていつもと違う視点から見られたことが良かったと思う。普段入ることができない建物の屋上に行ったのも面白かった。
- 慣れない機材を扱うのは大変だった。ロケの途中で機材がうまく動かなくなったが、何とか乗り切れた。
- 出演をしたのでセリフを覚えたり、役の気持ちを考えたりするのも初めての経験で楽しかった。上映された映画を見て改めて「こういうふう撮られていたのか」と気づいたこともあり面白かった。



9 これまでのワークショップの実績

1. 親子ムービーワークショップ

年度	講座名	参加者	主催
2005/11/4~6	キッズ・フィルムリテラシー① (独立行政法人福祉医療機構助成事業) 講師: AMME BERTRAM (デンマーク映画協会教育部主任)	親子 15組	名古屋おやこセンター
2006/7/27~28	おもしろ映画づくり体験 in 下呂	親子 10組	キッズフィルムファクトリー

2. NHK文化センター「みんなで映画をつくろう」講座

主催: NHK文化センター名古屋教室ワークショップ

年度	テーマ	作品名	時間	監督名	作品名	時間	監督名
2007前期	—	待ち時間	12分	永田早紀	SMOKE	5分	中西泉
2007後期	—	旅立ち	9分	野田敏江	廻る男	15分	椎名真義
2008前期	—	マッチ22	20分	永田早紀			
2008後期	忘れ物	LOST EMOTION	16分	佐原範計	わすれもの	31分	川口智子
2009前期	時間	switch	22分	安藤愛子			
2009後期	窓	琴の女	18分	村林ゆみ			
2010前期	雨	しずくのなみだ	15分	中村幸栄	コーヒーと雨	22分	荒木裕二
2010後期	記憶	色即是空	19分	酒向美香	WHO ARE YOU?	21分	小田真大
2011	食	家族の食卓	26分	近藤記三子			
2012前期	逆転	キャンパス	20分	依田恵美子			
2012後期	ノスタルジー	春隣	21分	北岡真紀子			
2013前期	リミット	わりと世界は近かった	15分	坂野友彦			
2013後期	中川運河	はこぶね (特別製作)	25分	安藤愛子			
2014	隣人	夏みかん	23分	目加田沙織			
	米	五平餅の午後 (特別製作)	15分	安藤愛子	鍵を拾う (特別製作)	25分	岡本昌司
2015	中川運河	ケツにラジヲ (特別製作)	40分	山田雅和			
2016	社会性	さまよう人 いざなう月	96分	浅井秀一			

3. 映像づくりワークショップ in 岐阜

主催: (財)岐阜市公共ホール管理財団

年度	テーマ	作品名	時間	監督名	作品名	時間	監督名
2007	待ち合わせ	待ちあわせ	9分	井深毅	再会のとき	5分	井深毅
		柳ヶ瀬都市伝説	5分	石樽昇司			
2008	嘘	ライアーズワールド	9分	宮本亜由子	市民映画に賭けた男	10分	大久保務
		人間嘘発見器モヨコ	13分	大野博史			
2009	扉	鍵	14分	丸山美樹	過去へのとびら	8分	加藤愛美
		ドアーズカルテット	14分	小里陽子	青い扉	12分	石樽昇司
2010	道	一緒に帰ろう	9分	神山渉	of road	11分	稿山碧
		僕の前に道はない	12分	小里陽子			
2011	食	大福とドーナツ	16分	川井純一 田口亜彩子	漂流家族	12分	大野健
2012	すれ違い	あしたやながせで	17分	田垣裕彦	女と男と100万円	11分	石樽昇司
2013	変身	すきやき	16分	坂本十三	gradation	19分	棚橋綾
2014	復活	ヤギと青空	13分	酒井稔	リバース	30分	大久保務

4. ショートムービーワークショップ

主催: 中部大学・金城学院大学
名古屋まちづくり公社(2016)

年度	テーマ (ロケ地)	作品名	時間	監督名	作品名	時間	監督名
2012	木とコンクリート (中部大学キャンパス)	それでも僕らはやめられない	7分	宇野仁	都会女と田舎男	10分	梅基哲矢 小崎知世
2013	光と影 (鶴舞公園)	キラリ	9分	弘田知奈美	Heavenly Bad Days	9分	安藤嘉花
		夏の光	7分	小川直人			
2014	坂道 (高蔵寺ニュータウン)	坂道で自転車に乗って	11分	加納彩雅	Spiral Staircase 螺旋階段	9分	戸田真理奈
2015	出会い (那古野四間道)	グッドボーイ	11分	日比野剛	一つの出会いから...	14分	居波太一
		カスミソウの花	10分	水越稜太			
2016	待ち合わせ (金山)	WHO AM I	9分	河瀬祥子	日曜日のことづて	14分	長谷川南美
		金山で待ってて	15分	杉浦嵩人	キミの声	11分	服部茜

地域を見つめ直す映像製作の可能性

撮影機材に触ったこともない、演技をしたこともない、監督など務めた事のない学生たちとともに、「3日間+aで短編映画をつくろう」という企画は、ある意味、無謀な企画である。映画の舞台は日頃通り過ぎている愛知県内の町である。

その町に住む人々が織りなす一つのドラマを想像し、シナリオを参加者全員が書き上げてみるころから、プロジェクトはスタートする。このシナリオを全員が発表するプレゼン大会が、実は一番の要である。ドラマの成功の鍵は人々の共感を得られるかどうか、そのシナリオにかかっている。

この無謀にも見える映像製作の原点は、2005年の愛知万博にさかのぼる。木全純治氏と私は、愛知万博に参加する国々から監督とカメラマンを招聘して、各地域で行なわれる交流を映像にしておうという企画を立てたのである。会った事もない、ましてや日本に来た事もない映画監督たちの協力を得られるのか、三週間という短い期間で映画が完成するのか。不安は一杯であったが、21カ国からやってきた監督たちは、ホームステイを楽しみながら見事にそれぞれ30分程度の映画を完成させたのである。我々が手がけた「一市町村一国フレンドシップ記録映画製作事業」は、監督たちが「異文化からのまなざし」で見た「日本の日常」が描かれており、新鮮な発見がたくさんあるものとなった。

「3日間+aで短編映画をつくろう」プロジェクトでは、学生たちは、一つのショートムービーを短期間でつくりあげるといふ目的に向かって議論し合い、助け合い、励まし合いながら突っ走っている。何より、舞台となった町を見る彼らの眼が変化していることは、大きな成果である。

現在は、映像の時代であり、人々は生まれた時から映像情報に日々さらされている。このプロジェクトに参加する学生たちには、映像の発信者側になることにより、社会にあふれる映像情報を読み解く力を身につけてもらいたいと願っている。また、地域からの発信の意義を問い直してほしい。

金城学院大学国際情報学部 教授 佐藤 久美

1)ヨルダン(春日井市で製作)、チュニジア(瀬戸市)、カンボジア(幸田町)、ペルー(豊川市)、ベネズエラ(豊橋市)、ベルギー(長久手町)、リトアニア(豊橋市)、カメルーン(津島市)など21カ国から監督とカメラマンが来日し、万博期間中(2005年3月~9月)に愛知県内19市町で映像製作をした。
木全純治氏はディレクター、佐藤久美はプロデューサーを務めた。